

アリーナ整備に関する 検討について

～ 静岡市におけるこれまでの検討と現在の取組み ～

アセットマネジメント推進課
公民連携推進係 曾根田・浅原・森下
TEL:054-221-1167 (内線81-4956)
E-MAIL : asset-suishin@city.shizuoka.lg.jp

基本構想と総合計画

（ まちづくりの目標 ）
世界に存在感を示すまちになるために

「世界に輝く静岡」の実現



市の抱える課題

- △地域経済の活性化
- △人口減少対策（少子高齢化・特に若者の転出が顕著）
- △自治体財政の健全化
- △都市機能の充実・求心力の向上



- 市外・県外から人を呼びこみ**、交流人口を増加させる施策が必要
- 市外・県外から消費を呼びこみ**、市内の経済活動を活性化する施策が必要



◎ **アリーナにその可能性がある**

市が目指すアリーナ

観るアリーナ

- ・バスケットやバレーボール等、最高峰のスポーツ
- ・有名アーティストによる大規模コンサート

▶現在の静岡市で開催の機会が少なかった鑑賞機会の提供

選ばれるアリーナ

- ・観客が利用しやすい立地・広さ
- ・興行を行いやすい配置・設備等

▶観客・興行主共に利用しやすい施設整備

稼げるアリーナ

- ・魅力的なイベント開催等による収益最大化
- ・市の財政負担を軽減

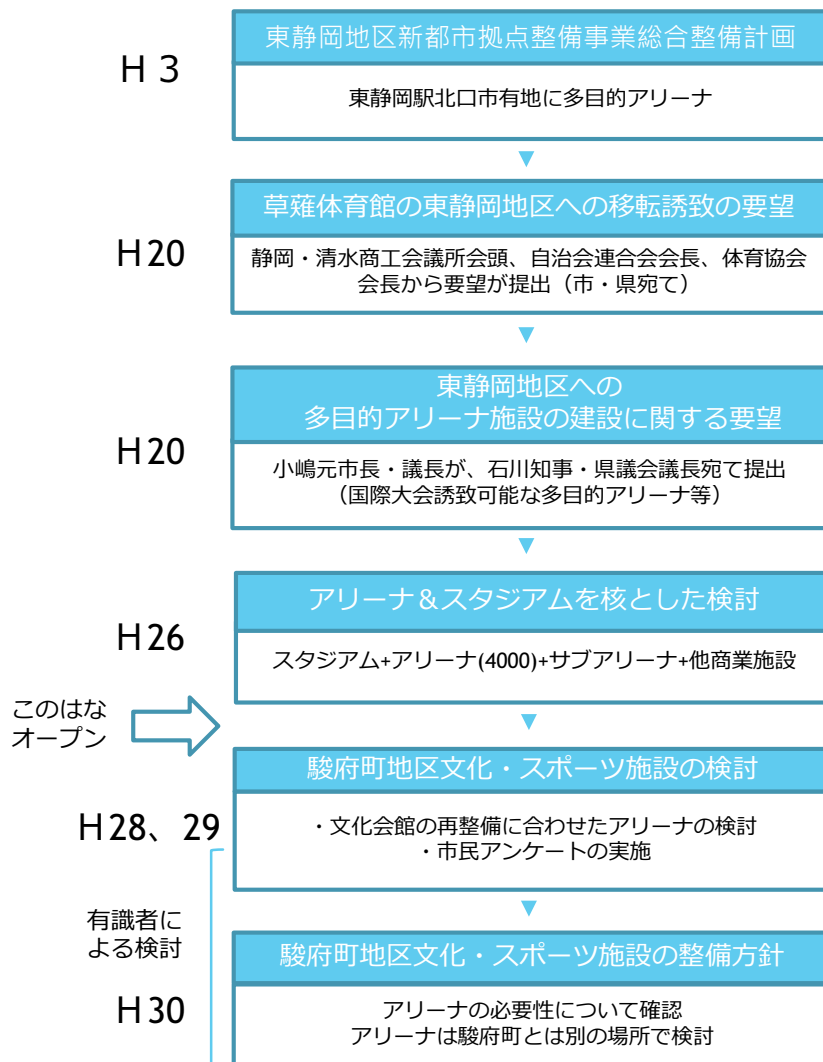
▶持続可能な施設運営により、長期的に地域に貢献

※アリーナとは？

市民が自らスポーツをする体育館とは異なり、数千人以上の観客を収容し、スポーツやコンサート等を観ることを主な目的とする施設を想定しています。

民間主導による整備・運営を目指す

これまでの本市のアリーナ検討経緯



平成30年度の整備方針

(アリーナに関して)

- ・市民の期待を確認
- ・民間の需要を確認
- ・交流人口増加に効果
- ・地域経済・税収への波及効果を確認
- ・**アリーナの必要性を確認**
- ・民間活力導入の可能性を目指す
- ・**今後、ゆとりある敷地・アクセス性等を考慮し建設地を選定**

令和元年度

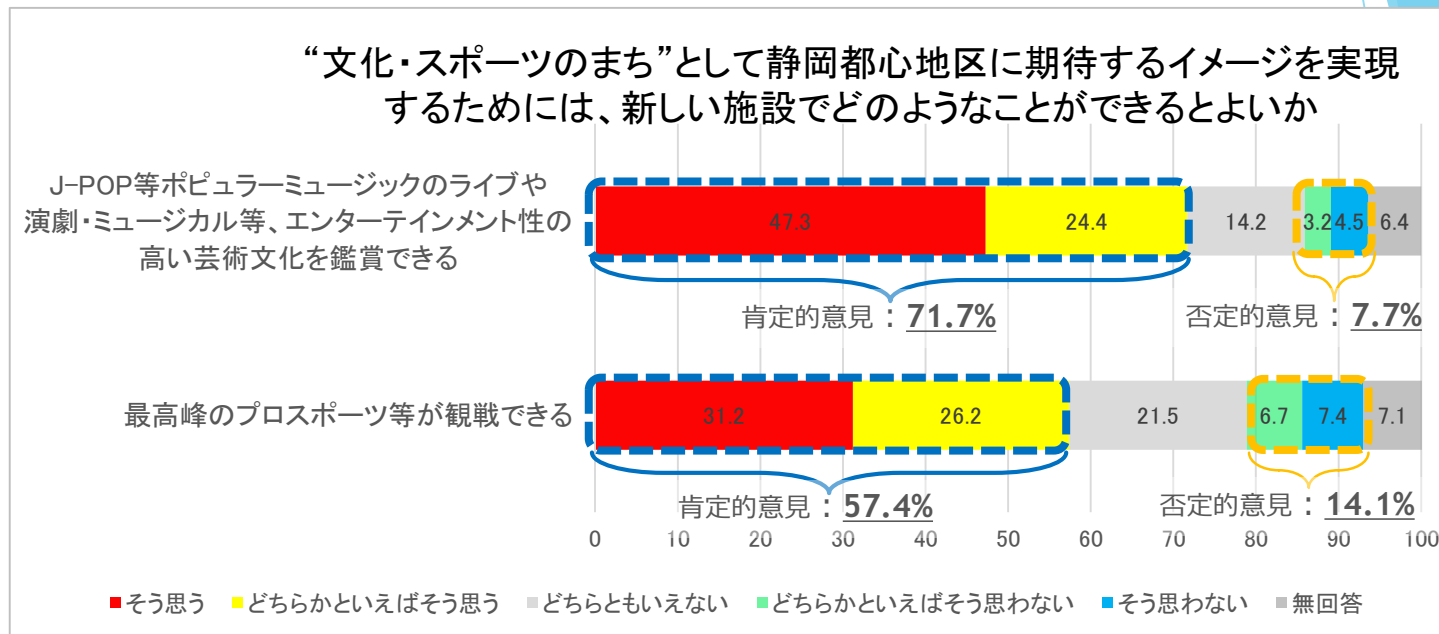
アリーナ候補地に関する調査

(調査内容)

- ・スポーツ庁のスタジアム・アリーナ改革指針
- ・過去の調査経緯
- ・民間事業者ヒアリング
- ・先進地調査

過去の各種調査の結果①（市民アンケート）【H29】

※H29 駿府町地区におけるアンケート



出典：文化・スポーツを核としたまちづくりに関する調査アンケート結果
 実施日：平成29年9月4日～9月19日
 実施方法：13歳以上の市民3,000人等間隔無作為抽出
 実施数：発送3,000通、有効回答1,081票（36%）

新しい施設において、これまで本市で開催される機会が少なかった、J-POP等のポップスのライブ等の**エンターテインメント性の高い芸術文化**や、バスケットボールやバレーボールなどの**最高峰のプロスポーツ等の観戦**が望まれている。

過去の各種調査の結果②（市場調査 興行需要等）

【H29-R1】

施設	ヒアリング先 規模 (席数)	施設運営事業者			コンテンツ事業者				誘致可能な 利用形態
		A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社	
アリーナ	10,000席	◎	◎			○	◎		音楽興行 など プロスポーツ興行 など
		コンサート	コンサート			コンサート	コンサート		
	6,000~ 7,000席	○		◎		○	◎	◎	
		コンサート		コンサート		コンサート	コンサート	コンサート	
	5,000席		◎		◎			◎	
			プロスポーツ		プロスポーツ			プロスポーツ	

※H29-R1_調査（駿府町地区調査含む。）

静岡市における需要

- 大規模コンサートは、需要があるとの意見が多い
- プロスポーツ、実業団スポーツについては、一定の需要は見込める



5,000~7,000席規模のアリーナであれば、
催事を誘致できる可能性が高い。

過去の各種調査の結果③（市場調査 立地等）【H29-R1】

（1）交通アクセス

- **広域から集客**を想定し、**東京、名古屋から1時間**という立地を非常に高く評価する意見が多数
- 高速道路 I C から幹線道路でアクセスができる場所は、大型車両の搬入がしやすく、興行主にとってメリットとなる。
- 交通弱者への配慮、環境への配慮を考慮すると**鉄道利用が理想的**

（2）敷地の広さについて

- 建物、屋外バックヤード、観客の滞留スペースや物販スペースなどに十分な広さがある

◎ 想定するアリーナの必要面積

メインアリーナ	: 10,000m ²
客溜り・多目的広場	: 4,000m ²
大型トラック・関係者駐車場	: 3,500m ²
車両寄付等その他施設	: 2,500m ²

合計：20,000m²以上

公共交通・高速道路によるアクセス、使いやすい広さが必要

過去の各種調査の結果④ (周辺施設とのすみ分け) 【H29-R1】

(設備、利用内容等)

	新アリーナ	静岡中央体育館	このはなアリーナ	ツインメッセ北館/南館	グランシップ大ホール	エコパアリーナ	浜松アリーナ
客席	最大収容 5,000席 ～8,000席	固定席：984席 最大収容：－席	固定席 2,700席 最大収容 4,000席	固定席：0席 最大収容：北6千人 /南6.5千人	固定席：2,194席 最大収容：4,626席	固定席：4,868席 最大収容：10,000席	固定席：3,544席 最大収容：7,600席
フロア	コンクリ 車両乗入可 2,000㎡ (バ 1面) ステージあり 天井高20m	木製 車両乗入できず 2,440㎡ (バ 3面) ステージなし 天井高26m	木製 車両乗入できず 3,772㎡ (バ 4面) ステージなし 天井高28m	コンクリ 車両乗入可 北5,000㎡/南5,400㎡ ステージなし 天井高 北13m/南10m	石張 車両乗入できず 1,720㎡ ステージなし 天井高58m	木製 車両乗入できず 4,165㎡ (バ 4面) ステージなし 天井高26m	木製 車両乗入できず 2,860㎡ (バ 3面) ステージなし 天井高20m
利用種別							
利用内容	コンサート プロスポーツ等 市民スポーツ (練習・試合) アマチュアスポーツ MICE・展示・式典	市民スポーツ (練習・試合) アマチュアスポーツ スポーツ教室	大相撲 Vリーグ 県民スポーツ (練習・試合) スポーツ教室 イベント利用	プロレス 展示会・博覧会	コンサート 市民利用 (音楽・ダンス) 式典	コンサート Fリーグ 県民スポーツ (練習・試合) 式典	Fリーグ Bリーグ 市民スポーツ (練習・試合)
	目指すアリーナ	現在市で実施されている内容			西部地域		

市内類似施設との利用内容のすみ分けは可能

スタジアム・アリーナ改革指針（概要）

※平成28年11月16日 スポーツ庁

（目的）

- ① 政府の成長戦略、日本再興戦略2016の官民戦略プロジェクト10 に、スポーツの成長産業化を位置づけ
- ② 飲食・宿泊、観光等を巻き込んで、地域活性化の起爆剤となることに期待
- ③ スタジアム・アリーナを核とした官民連携による新たな公益の発現の在り方を提示

（主な内容）

- ① スタジアム・アリーナの定義及び指針の位置づけ
 - ・数千～数万人の観客を収容し、スポーツを観ることを主な目的とする施設と定義
 - ・「スマート・ベニュー」の考え方を踏まえ、地域の実情に応じて検証を行うことが必要
- ② スタジアム・アリーナ改革によって地域にもたらされるもの
 - ・集客施設として地域のシンボルとなるとともに、新たな産業集積の創出につながる。
 - ・スポーツ機会の増加や地域の社会課題解決等のスポーツの波及効果をまちづくりに活かすとともに、地域のアイデンティティの醸成や不動産価値の向上など、地域の持続的成長につながる。
- ③ コストセンターからプロフィットセンターへの転換、民間活力を活用した事業方式・資金調達方式の導入
 - ・中長期的な収支計画の検討等により、スタジアム・アリーナそのものの収益性を向上させ、公的負担を軽減し、持続可能なスタジアム・アリーナへ変革する。
 - ・にぎわいの創出や持続可能なまちづくりの実現等により、投資以上の効果を地域にもたらす。
 - ・多様な事業方式（PFI、コンセッション、公設民営など）・資金調達方式の活用・充実により、施設の充実やサービスの向上を図る。

（重点的に考慮すべき項目 ～改革のための4つの項目、14の要件～）

- ① 集客力を高めまちづくりを支える持続可能な経営資源としての要件
- ② プロジェクト上流段階において検討されるべき事項に関する要件
- ③ 収益・財務に関する要件
- ④ 事業推進・運営に関する要件

アリーナ建設地の条件

項目	内容
持続可能な施設運営	まちづくりの中核を担い、まちなか立地、集客力向上といった要素をもった持続可能な施設
利便性の高い交通アクセス	公共交通・広域からのアクセスが可能なこと
まちづくりとの整合	まちづくりにおける計画との整合がとれていること
周辺環境への影響・対策	騒音・振動、交通渋滞等の調査、対策が可能なこと
利用しやすい広さ	観客・興行主双方にとって利用しやすい広さが確保されていること (20,000㎡以上)
市有地	早期実現の可能性が確保されていること
事業性	民間事業者のノウハウを最大限発揮できること

アリーナ候補地

項目	内容	東静岡の状況
持続可能な施設運営	まちづくりの中核を担い、まちなか立地、集客力向上といった要素をもった持続可能な施設	・都市計画マスタープランで都市拠点と設定（交流人口の増加）
利便性の高い交通アクセス	公共交通・広域からのアクセスが可能なこと	・JR駅、静鉄駅に至近 ・新幹線駅から1駅
まちづくりとの整合	まちづくりにおける計画との整合がとれていること	・第3次総合計画で文化・スポーツの殿堂に位置づけ
周辺環境への影響・対策	騒音・振動、交通渋滞等の調査、対策が可能なこと	・候補地での調査が必要
利用しやすい広さ	観客・興行主双方にとって利用しやすい広さが確保されていること（20,000㎡以上）	・20,000㎡以上
市有地	早期実現の可能性が確保されていること	・市有地
事業性	民間事業者のノウハウを最大限発揮できること	・静岡市の需要は確認済 ・候補地での事業性調査が必要（継続調査）

以上の条件に当てはまる **J R 東静岡駅北口市有地** を **有力候補地** として、建設可能性を調査

今年度の取組について

周辺住民の皆様への相談・意見交換

- ▶ これまでの経緯も踏まえた率直な意見・事業への思い・不安・懸念・要望などを伺う。

地元勉強会・意見交換会の実施

- ▶ 地元の皆様を対象として、アリーナのあり方等について意見を伺う。

騒音調査・振動調査・交通調査等

- ▶ 調査で周辺への影響を明らかにし、対応策について検討する。結果を周辺住民の皆様へ説明・相談し、ご意見を伺う。

市場調査・経済波及効果試算

- ▶ 民間事業者ヒアリングから需要、規模等を把握し、合わせて周辺施設との差別化を検討する。また、経済波及効果を試算し整備による効果を把握する。

現在の活動や施設の検討

- ▶ 地元の皆様の活動の継続、アート&スポーツ/ヒロバのあり方について検討する。検討結果を周辺住民の皆様へ説明・相談し、ご意見を伺う。

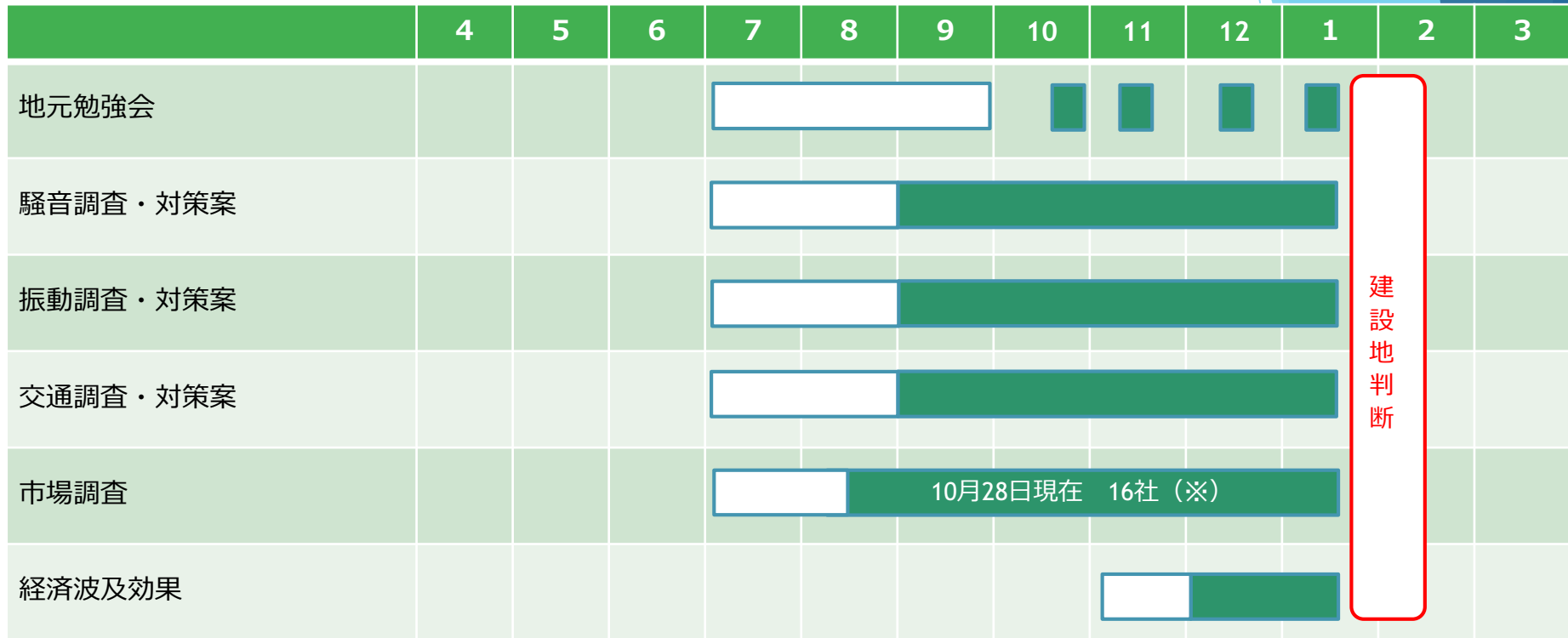
東静岡地区の将来像の検討

- ▶ これまで策定した計画を進めていき、近い将来の東静岡地区のまちがどのようなようになるのか描く。

建設地判断

今年度の主な調査の進捗と想定スケジュールについて

1 主な調査の進捗状況

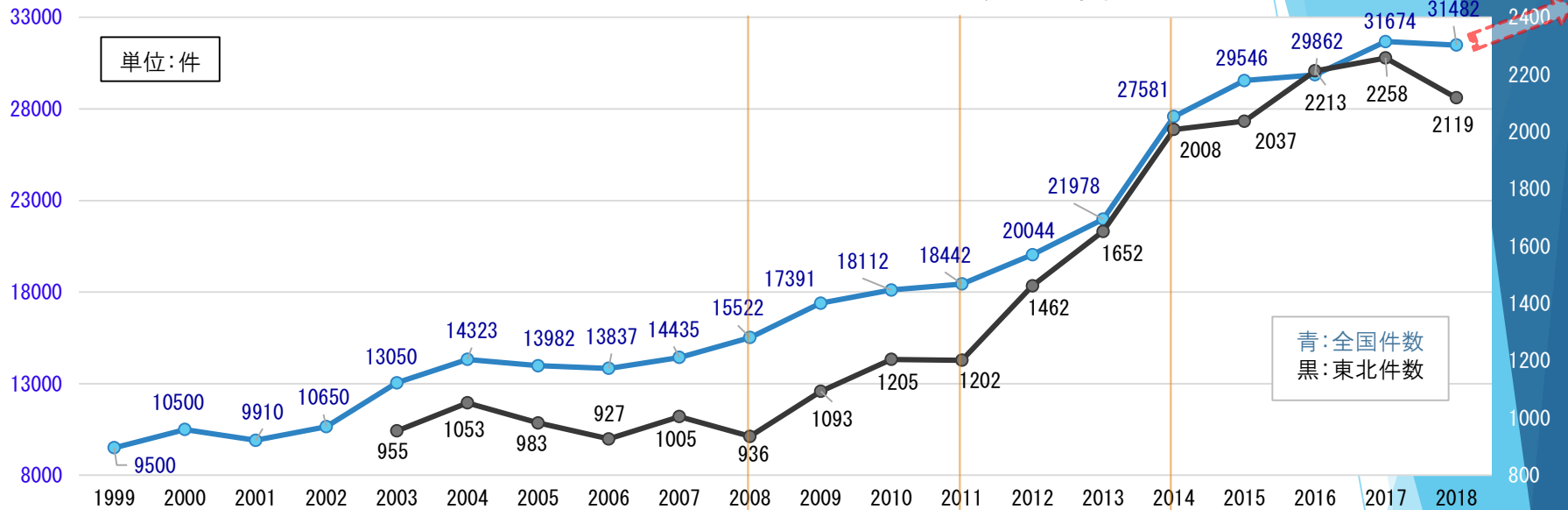


（※）ヒアリング先 商社・デベロッパー・ゼネコン・リース・設計・プロモーター・音楽関連会社・広告代理店・プロスポーツ関連・IT事業者・地元企業

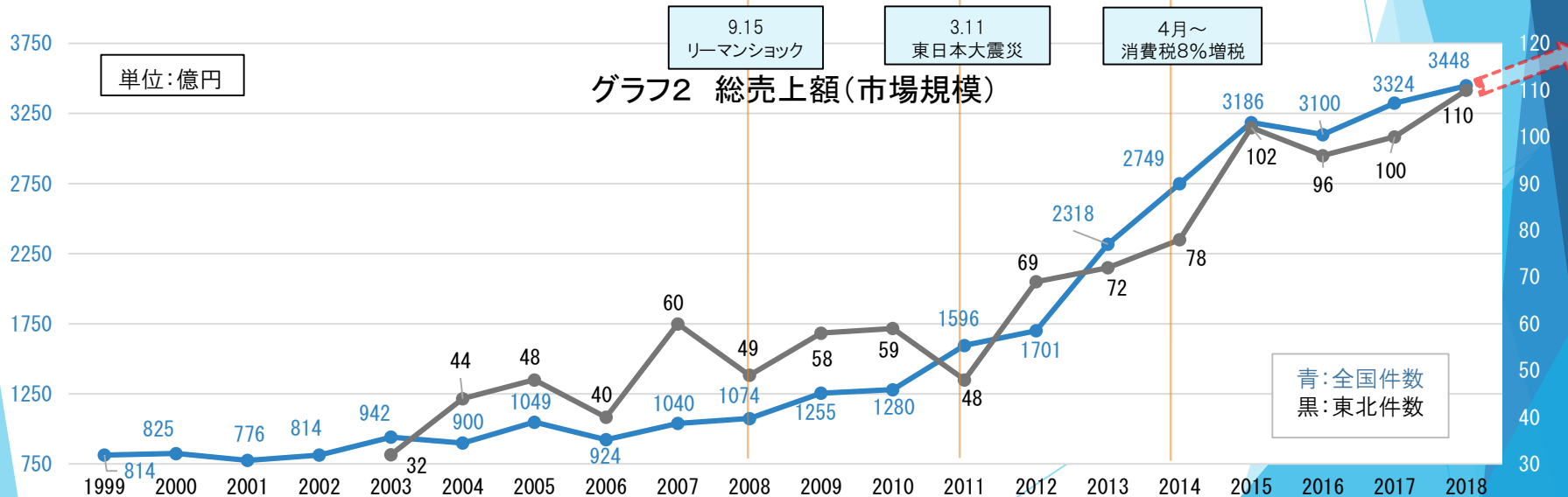
2 想定されるスケジュール



グラフ1 エンターテインメント※公演数年別推移



グラフ2 総売上額(市場規模)



※ミュージカル、演劇、お笑いなどのパフォーミングアーツや各種音楽ライブ、演劇、イベントの総称と定義する
 データ出典：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会(ACPC)